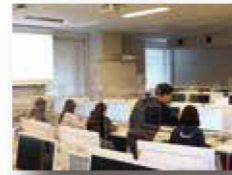


社会調査に役立つ統計分析：SPSS ワークショップ

2024年2月27日(火)～3月1日(金)
講師：金明中先生(ニッセイ基礎研究所上席研究員、亜細亜大学特任准教授)



現代女性キャリア研究所では、2012年から学内の学生・教職員を対象として、『社会調査に役立つ統計分析：SPSSワークショップ』を開催しています。

講義では、SPSSの基本操作からデータの加工などの基礎知識、統計分析の理解からクロス集計、回帰分析等、基礎編と応用編を計4日にわたって実践的学習が行われました。参加後のアンケートの満足度も高く、本年度も大変好評なワークショップとなりました。

ワークショップ「夏のキャリアスタートアップセミナー」

2023年9月19日(火)、20日(水)
講師：安斎徹先生(清泉女子大学教授)



『夏のキャリア・スタートアップ・セミナー ～アニメ映画とワークショップを通じて、これからのキャリアを考えよう!～』を日本女子大学の学生向けに開催いたしました。

身近なアニメ映画や参加型のワークショップを通じて、これからのキャリア(生き方・働き方)を考えるきっかけを提供し、今後のキャリア形成に向けて自ら考え、自ら行動する意欲を醸成する機会となりました。こうして「一歩」を踏み出すきっかけになった2日間は、参加してくださった学生の皆さんの貴重な経験となりました。

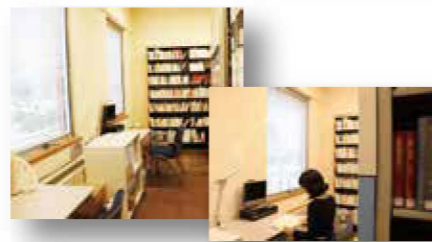
RIWAC-DA

(リワック・データ・アーカイブ)

国際婦人年(1975年)以降に実施された、女性とキャリア(生き方)に関する社会調査を多数収集し、その詳細書誌データをデータベース化しネット上で公開しています。レポートや論文作成、ゼミ報告などに、多様な社会調査をぜひご利用ください。

所蔵件数 1623 件(2024年3月1日現在)
<http://search.riwac.jp/>

RIWAC 資料室のご紹介



資料室にキャリアに関する文献を多数所蔵しています。閲覧をご希望の方は当研究所へお問い合わせください。

『現代女性とキャリア』発行

年に一回、『現代女性とキャリア』を発行しています。論文のほか、主催した講演会やシンポジウムの記録、研究所や学内のキャリアに関する事業活動についての報告を収録しています。また、投稿論文も受け付けております。詳細はHPをご参照ください。本書をご希望の方は送料負担のみでお送りいたします。メールにて当研究所へお問い合わせください。



お願い

当研究所では、女性とキャリアに関する社会調査のデータアーカイブ(<http://search.riwac.jp/>)を公開しています。女性とキャリアに関する社会調査資料をお持ちの方は、ご協力お願いいたします。

News Letter

Research Institute for Women and Careers

RI*WAC

日本女子大学

現代女性キャリア研究所

〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1

TEL 03-5981-3380 FAX 03-5981-3381

Email riwac@fc.jwu.ac.jp URL <http://riwac.jp/>

「女性が働く意味を問う」

2023年12月2日(土) 実施



一橋大学名誉教授
木本喜美子



埼玉学園大学教授
杉浦浩美



名古屋大学准教授
上村泰裕



日本女子大学教授
現代女性キャリア研究所長
永井暁子

12月2日(土)に「女性が働く意味を問う」と題するシンポジウムを開催いたしました。オンライン参加を含め、全国から100名を超える参加者を迎え、盛大な会となりました。

第一部では、一橋大学名誉教授の木本喜美子先生をお招きし、「女性が働く意味を問う—共働き文化の過去・現在・未来?—」というテーマで基調講演をいただきました。

まず、女性が働く意味という問いについて、様々な先行研究を検討することで、シンポジウムの命題を明確化されました。次に、日本的雇用慣行の形成と揺らぎに着目されました。そこでは、「女性が働く意味」を考えるにあたり、戦後日本の男女の働き方・生き方を枠づけてきた日本的雇用慣行の仕組みをおさえつつ、非正規化と共働き化によって揺らぎが生じている現在の局面を概観しました。また、日本の労働環境における、賃金水準・管理職比率・勤続年数をめぐる様々な男女間格差の現状も確認しました。

これらを踏まえて、「女性が働くこと」をいかに捉えるかということに論を進め、「女性が働くこと」を把握し位置づける際に、「近代家族論」がもたらした問題点を取り上げました。そして、女性労働の多様性の軽視/捨象傾向に対して、共働きの水脈を掘り起こすことから研究の重要性を提起しました。

さらに、女性が働く意味を調査事例を含めて改めて検討しました。地方圏での調査事例(調査対象者は80歳代後半および40歳の女性)を挙げながら、これらの事例において働くことがどのように意味づけられてきたのか、その必要性がどこから生じたのかを考察しました。そこから、現代から近未来に向けた女性が働く意味について考えるヒントを得ることができました。

第二部では、パネルディスカッションとして、埼玉学園大学教授の杉浦浩美先生、日本女子大学教授、現代女性キャリア研究所の永井暁子所長、名古屋大学准教授の上村泰裕先生から、講演を踏まえた上での講演をそれぞれいただきました。

杉浦浩美先生は、「なぜ女性の就労は〈選択〉の問題とされてきたのか」と題し、近代家族論の側から、女性が働く意味を問われ続けてきたことを改めて整理されました。女性が、就労=経済的自立というシンプルな就労観から遠ざけられ、それが現在の女性労働者の困難にもつながっているのではないかと、という問題意識の下、現在に至る女性の「就労観」と政策の関係について論じられました。

永井暁子所長は、「家計と夫婦関係から見た女性が働く意味」と題し、女性の就業を含めライフコースの変化が起きている中で、「家計」の視点から女性が働くことは「家計の補助」から変化しているのだろうかということについて考えました。

上村泰裕先生は、「働くことの意味と保護」と題して、ディーセントワークに着目し、働く意味と保護というふたつの軸から様々な働き方を検討しました。

最後に、フロアからの質問に対する各先生のご意見をいただきながら議論を深め、活発なパネルディスカッションを行いました。今回のシンポジウムでは、「女性が働く意味」について、日本の就労環境を再考するとともに、未来の在りようを考える貴重な時間となりました。

▼当日の様子



研究会報告

第1回研究会

「遺族年金を考える」

9月21日(木) 18:00~19:30



日本女子大学人間社会学部教授の中尾友紀先生をお迎えして、研究会をハイブリッドで開催いたしました。

男女差がある遺族年金は、男女平等の観点から今後、その解消が求められることとなります。今後の遺族年金のあり方について、働く女性という視点で考える機会を提供いただきました。学内の先生方や学生に加えて、遠方の他大学からも多くの方に参加いただき、活発に質疑応答も行われ、新しい知識や視点を得る貴重な機会となりました。

第2回研究会

「女性と政治」

12月15日(金) 16:00~18:00

シドニー大学准教授の米澤陽子先生とラ・トロブ大学准教授のエマ・ダルトン先生をお迎えして、研究会をハイブリッドで開催いたしました。米澤先生には「国会における女性政治家の話し方に関する考察」、ダルトン先生には「東京都議会女性議員の「女性」に関する発言の分析」についてご報告いただき、政治と女性のかかわりに新しい視点を得る機会となりました。学内の先生方や学生に加えて、遠方の他大学や海外の大学の方も参加いただき、多くの質疑応答も行われ、盛況のうちに終了いたしました。



第3回研究会

「性暴力と男女不平等社会」

2月22日(金) 10:30~12:00



日本女子大学名誉教授であり、現代女性キャリア研究所元所長の大沢真知子先生をお迎えして、研究会をハイブリッドで開催いたしました。

「性暴力と男女不平等社会」と題して、性暴力救済センター「日赤なごやなごみ」の設立の経緯ならびにNHK「性暴力被害者調査」(2022)などから、性暴力に関する具体的状況や明らかになった課題を知る良い機会となりました。

学内の先生方や学生に加えて、遠方の他大学からも参加いただき、質疑応答後、性暴力と男女不平等社会の構造的問題について活発な討論が行われました。

その他の活動

オープンキャンパス展示

8月6日(土)/9月3日(日)のオープンキャンパスにRIWACのブースを開設し、多くの方に研究所の活動をご覧いただきました。

▼当日の様子

